

1 主は素晴らしい

G D G

主は 素晴らしい 主は 素晴らしい

G7 C G D G

主は素晴らしい 私 の主

God is so good × 3

He is so good to me

Amazing Grace

G C G Em A7 Dsus4 D

驚くばかりの恵みなりき

G G7 C G Em A7DG

この身のけがれを 知れるわれに

危険をもわなをも避けえたるは

恵みのみわざと言うほかなし

ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ アーメン

見つめつづけます

G Am D C C/D

見つめつづけます あなたを今日も

G Am D C D7 G

けして離れない イエス様 あなたを

C2 G/B Am D G F/G

わたしの日々の 力となって 力となってください

C2 G/B Em Am D7 G

わたしの今日の 力となって 力となってください

5 祈りのガイドライン

1. 賛美と感謝の祈り

イエス様の十字架と復活、共にいてくださるだけでなく、私たちが強めてくださることを感謝しましょう。

2. 悔い改めと主を慕い求める祈り

「遠慮なく、率直に、制限なく」受け止めてくださる方に心をオープンにしてお話しし、お祈りし、お委ねできますように。

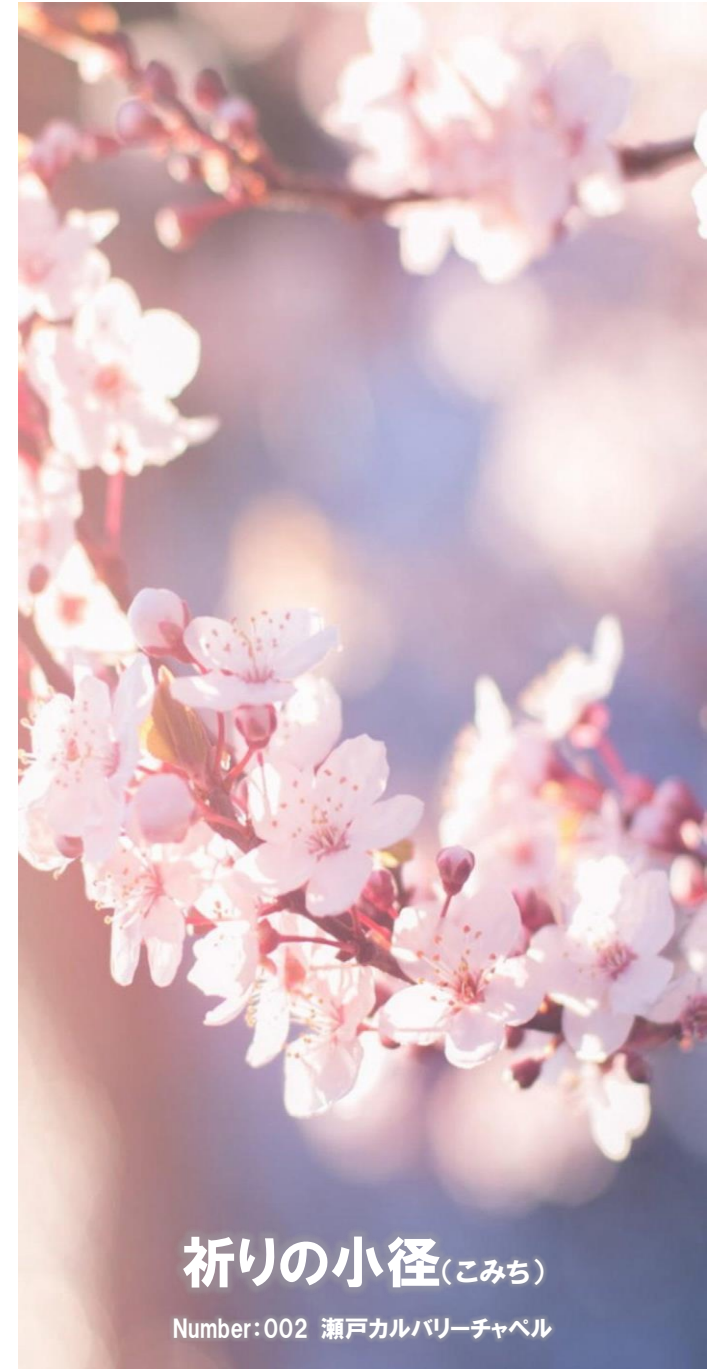
3. 個人的な願いの祈り

求めなさい、そうすれば与えられます！というお約束を信じて祈ります。

4. とりなしの祈り

- (1) 家族・親族・友人知人・ご近所の方のために
- (2) 病いや困難と闘っている兄弟姉妹のため
- (3) 瀬戸カルバリーチャペルの働きのため
 - ・100名礼拝と10名の受洗者のため
 - ・瀬戸ライフ・アート・スタジオのため
 - ・牧師家族のため・次世代の働きのため
- (4) 新型コロナウイルスの収束と復興のため
- (5) 日本のリバイバルと大和カルバリーチャペルのため

ゆきなれた路の
なつかしくて耐えられぬように
わたしの祈りのみちをつくりたい
八木重吉



祈りの小径(こみち)

Number:002 瀬戸カルバリーチャペル

2 今日の聖書のことば

マタイによる福音書11章28～30節

11:28 すべて重荷を負うて苦労している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう。

11:29 わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。

11:30 わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」。

イザヤ書53章3～5節

53:3 彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。また顔をおおって忌みきらわれる者のように、彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。

53:4 まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。

53:5 しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめを受けて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。

マルコによる福音書14章章34節

「わたしは悲しみのあまり死ぬほどである。ここに待っていて、目をさましていなさい」。

3 こころの投影

- Q. あなたはどんな重荷がありますか？なぜそれは重荷に感じるのですか？
- Q. マタイ11章28節はキリストを信じる者に語られた大切なみことばです。どのように、イエス様のもとに行くことができるでしょうか？
- Q. 主に「悲しみ」を担って頂いた経験をひとつ書いてみましょう。

4 みことばの解説

教会に来ることも大切です、もちろんこの時期には在宅礼拝や在宅祈り会も可能です。どちらにしても、イエス様が願っておられるのは、**イエス様のもとに来ること**です。イエス様だけが私たちの重荷をおろし、休ませてくださるからです。それだけでなく、イエス様のもとに行くと、イエス様ご自身(その生涯)から学ぶことができます。

イエス様の柔和さやへりくだった品性に触れ(人は触れているものようになる)、この御方の似姿に変えていただくと、いままで重荷だったものを背負えるようにさえなるのです。その時、私の重荷はイエス様の重荷となり、また負いやすく軽くなり、イエス様が共に背負ってくださっていることを知るでしょう。

イエス様は、喜びを分かち合うために悲しみの人となってくださいました。そして私たちの「深い悲しみ」という重荷を背負って、十字架の道を歩まれました。それが祈りの小径、ピア・ドロロサです。主の後ろ姿を仰ぎながら、私たちも「目を覚まして」祈り続けたいと思います。その足跡には必ず、驚くべき平安といやしが伴いますから。(受難週を迎えるにあたって)

主の恵みふかきことを
味わい知れ
主に寄り頼む人は
さいわいである
詩篇三四篇八節